

「……長……
……学園長！」

「……あら……」

ぽん

「二人共一緒？
あいかわらず仲が
いいのね
どうしたのかしら？」
「いえ……
今日の会議に
関してなんですが……」

「任せるわ……
私は『大事な交渉』が
あるから♡」
「え？でも司令官が
いないと……」
「それより二人の時間を
大事にしないさい
……せっかく巡り合った
恋人同士なんですから♡」

「……やっぱりおかしいね……」

「ええ……『あの人』に呼び出されてから
いつもボクとして……それに……
「うん、学園でも今、ちよつとした噂に
なってるよ……『あの人』と
一緒にいるところを
よく見かけるって……」
「ママが幸せになるなら
いいのだけど……前はあんなに
毛嫌いしていた人なのに……」
「何かおかしいよね……ボクも調べてみる
……だって、あの規律に厳しい
千咲さんが……」

「あんな、はしたない格好で学園に
来ているなんて……」



「……授業はもういいのの？
千咲ちゃん♡」

「はぁい♡」

全部きかせてありますから
…授業も戦隊の業務も…
だから今日も朝まで千咲を
可愛がってくださいさぁ♡
「鼻の下が伸びとるぞ、ドスケベめ」
「あぁん♡ガマンできなくて……」
学園でオネダリしちゃいました♡」



「えへ♡スヘヘで
ゴメンなさい♡」

「めふふ♡たまらんのぉ
しかも、この格好をしてくれるとは…
…高校時代はチア部だったんじゃろ？」
「そっ…ですけど…こんな変態みたいな
格好…『恋人』だからしてる
ですよ♡」



「おお！そうじゃったワシらは三日間のセックスで身も心も結ばれたんじゃったな♡」
「あん♡♡♡です……」
だから干咲のドスケベゆるゆるボディを堪能してください♡んふ♡んふ♡♡

「娘さんにバレてもいいのかの？♡」
「ああん♡乳首♡ひのきする……んべ♡んちゅう♡♡」
……いいです♡♡
学園中に知られてもあ
『助蔵さんと干咲はラブラブ』だって♡
「んちゅ♡なんてドスケベで可愛い女じゃ……
ワシの友人共にも自慢したいのお♡
……そうじゃ……
いい考えがあるぞ」

「全く……ここまで性欲の塊だったとは……
最近、学園で噂になったとるぞ
『学園長はジジイの女になった』とか
『毎日、理事長とエロいことしてる』とかの♡」
「本当のことじゃないです方あ
おほ♡♡それえ♡乳首い♡
♡ミルクてちゃっ♡♡」

わい

や

ぐん

んべ♡んちゅう♡♡
おほ♡♡それえ♡乳首い♡
♡ミルクてちゃっ♡♡

ぐん



「んぽっ♡んぶちゅっ♡んぢゅっ♡」
「チンポしやぶりに夢中になつとるぞうっ!♡ホレ、説明せんか」
「んぶっ♡桜間干咲い」
「37歳…あっぱい25センチのQカップっ…」
「一人娘がいいます…んじゅ♡」
「いいぞ♡他のパトロン共に」
「見せつけてやろうか!狙っていた」
「厳格な女司令官のプライベートルAVを♡」
「はあい♡ジュウソルジャーの」
「司令官やってまあすけど」
「今は助蔵さんと恋人同士♡猿みたい」
「セックスしまくるラブラブカップルですっ♡」
「…んぶっ♡んぶっ♡ん!!♡♡♡」

「しかもバカなコス着てド変態」
「セックスを楽しむ…な…うぐう♡」
「ぶはあ♡そっくすっ…」
「げぶっ♡」
「飲んだザーメンの量も」
「亡くなった夫より助蔵さんの方が」
「ずっっと多いド変態カップルです♡」
「いえ♡助蔵さんスキ♡スキ♡」

「んぽっ♡んぶちゅっ♡んぢゅっ♡」
「んぶっ♡桜間干咲い」
「37歳…あっぱい25センチのQカップっ…」
「一人娘がいいます…んじゅ♡」
「いいぞ♡他のパトロン共に」
「見せつけてやろうか!狙っていた」
「厳格な女司令官のプライベートルAVを♡」
「はあい♡ジュウソルジャーの」
「司令官やってまあすけど」
「今は助蔵さんと恋人同士♡猿みたい」
「セックスしまくるラブラブカップルですっ♡」
「…んぶっ♡んぶっ♡ん!!♡♡♡」

「おちんぽっ♡ふぁいとっ！おー！♡
ふれー♡ふれー♡お・ちん・ぽっ♡
…あはぁ♡まだあっきくなってるぅ♡」
「いい歳した子持ちの女が…あの厳格な
司令官の千咲がここまでエロバ力女に
なったんじゃ…そりゃあチンポはいくらでも勃つわい♡」
「あんっ♡嬉しいです…助蔵さぁん♡
使い古してヨダレだらだらのだスケベマン」で
よければたくさん使ってください♡」

おへ♡
オキコ♡
おきくなれ♡
おまくなれ♡

「言われんでも使ってやるぞ!♡うつ!♡
マンコどころか子宮口もワシのチンポで
ガバガバにしてやる♡」

「あ、あっ♡んあ!♡んぐいい!♡
これっ…♡っべ!♡ぽるちあ…あぐっ!♡
いくっ♡あっ!♡あっ!♡つがれる度
…♡ひくっ♡…」

「んひひっ!♡セックスすると獣のような声を
出しおる♡今日もガバガバ子宮は
逆流するほどザーメン潰け決定じゃ!♡」

「あ、ひっ♡んひひっ♡うれひいてえす♡
あ、あっ!♡」

6 時間後

「ふー♥もうこんな時間か…撮影してたの忘れてしまうのぉ♥」

「んへ♥うへへ…♥すけぞぁさんのチンポやっべ♥おっ♥動いてないのにっ…またくるっ…お、ひっ♥」

「んふふ♥簡単にイキおつて…」

ワシの家にこのままの格好で

移動する時も

3回はイッたかのお♥」

「はあい♥(せきい、ママこのままオチンポ説得されたら助蔵さんのプロポーズ断れないからあ…新しいパパできちゃうけど許してねえ♥)すっぴーすっ♥♥」

「それじゃあチンポ説得…続けるかのお♥」

「んひ♥見つかった時は頭バカになるくらい

コイファンしみたいあ♥」

「男子だったからフェラ抜きで

口封じ出来たがの…いや、きつと明日には広まってるじゃろうな♥」

「いいです♥知られてもあ…」

「だったら娘さんに報告せんとな…この動画での…」

「いせしゅん♥」

「ああん♥ママ今日も…うっん明日も明後日も帰れないと思っけと心咲なら朝陽くんがいるから大丈夫よね♥私も…愛する助蔵さんにオチンポ説得されてきまあす♥」

「おはよう♥」

「いっ」













